

KinChu

8
August 2016
No.672

近代中小企業

オーナー社長の人生と社員の幸せ応援情報誌



The first page interview



Special Feature

そろそろ本気でIoTに取り組もう

“IoT”とは何か？
それは、世の中の隅々へと浸透する
情報を活用した「付加価値」

中小企業のIoT利活用は
「経営課題解決」と「価値創出」の
両面から柔軟な発想で臨もう！

社長！「IoT」で、
その業務は自動化して
経営革新をしませんか？

“IoT”イノベーション
人間中心の思考から
一線を画した取り組み！！

人気連載

これからは 在庫力！

株式会社グリップス
堀内智彦

速習／不良品ゼロ 現場管理者が実践しなければならないこと

BizRepo (ビズレポ)
<http://www.bizrepo.jp/>

Interviewer / 廣川州伸
Editor / 編集部・大崎

当社は総勢50名ですが、SE(システムエンジニア)が26名、Webデザイナー・デザイナーが15名おり、そのうち女性が10名です。営業職の6名も、半数が女性です。事務職の3名も女性ですか

野口 / 当社の事業はシステムコンサルティング、Webサイトや広告の制作などになります。お客様に高付加価値のサービスを提供し、きめ細かいサポートを心掛けてきました。その仕事は、いずれも一人ひとりの社員の力量にかかっています。

——お仕事の内容と、社員構成についてお聞かせください。

野口 / 「シアンス」という社名がすてきです。由来をお聞かせください。
野口 / ありがとうございます。「シアンス(SIANCE)」という社名は「誠実(Sincerity)」と「信頼(Reliance)」を合わせたネーミングで、お客様に誠意を持って接し、信頼していただける仕事をしていきたいという思いであり、創業の原点なのです。以来、誠実さと信頼の名のもとに、一社一社のお客様との関わりを大切に歩いて歩んできました。

課題は、育児だけではありません。これから親の介護問題も浮上しています。介護のために会社を長期で休む、また離

野口 / 「裁量労働制」は、自分の生活リズムに合わせて働き方を決めることができる制度で、当社は2006年から試行錯誤を繰り返してきました。
元々、IT業界はハードワークが慣習でした。朝9時から夜10時まで働き休日も出勤することが多く、それが日常化しており疑問を呈することもありませんでした。それでは、社員の生活リズムが崩れてしまいます。昨今は、育児も夫婦で協力して進める時代です。そこで多様な働き方に対応でき、すべての社員が安心して働ける会社になりたいと考えました。

——御社について書かれた記事などを拝見すると、働き方をテーマにしたものが多いようですが「裁量労働制」に取り組まれた動機を教えてください。

野口 / 「裁量労働制」は、自分の生活リズムに合わせて働き方を決めることができる制度で、当社は2006年から試行錯誤を繰り返してきました。
元々、IT業界はハードワークが慣習でした。朝9時から夜10時まで働き休日も出勤することが多く、それが日常化しており疑問を呈することもありませんでした。それでは、社員の生活リズムが崩れてしまいます。昨今は、育児も夫婦で協力して進める時代です。そこで多様な働き方に対応でき、すべての社員が安心して働ける会社になりたいと考えました。

職を考えなければならぬケースにも遭遇することでしょう。であれば、会社の体制に自分の生活を合わせるのではなく、人生のステージに合わせて多様な働き方が選択できるようにすることで、仕事を続けられるはずです。

——最近、マスコミでも男性が育児休業をとるイクメンが注目されています。

野口 / そうですね。当社でも現在、二人の男性社員が育児休業と短時間勤務をとっています。一人は仕事上の都合で育児休業がとりにくい奥さんに代わり、当社に勤務する男性社員が育児休業をとり、二人で助け合って子育てをしています。

もう一人は、まず奥さんが1年間の育児休業をとった後に復職しました。そのタイミングで、今度は当社に勤務する夫が育児のための短時間勤務を申請。通常9時から18時までの勤務を、子どもが3歳になるまでの2年間の契約で、9時から16時の1日6時間の短時間勤務にしました。夫が子どもを保育園に迎えに行き、その後は、家事をしながら妻の帰りを待つ。そのようなライフスタイルにも当社は対応しています。



株式会社シアンス
代表取締役社長
野口 一則

「システム開発・コンサルティング、Webサイト・広告等の制作業務」
誠実さと信頼をベースに
顧客価値を創造していく

労働人口が減少するなか、優秀な人材の確保は重要な課題であり、働きやすい職場づくりは待ったなしの状況となっている。まして目に見えないソフトを取り扱う情報処理サービス業では、人材のクオリティが顧客満足度に直結する。そこで平成元年の創業以来、新潟で地域密着型企業として実績を積んできた「株式会社シアンス」では、10年前から「裁量労働制」に取り組み、社員の育児休業や短時間勤務など、働きやすい職場づくりにチャレンジしてきた。2016年2月、日本で12番目、新潟県では最初の「ニアシヨア認定」を受け、首都圏の開発受託パートナーに名乗りを上げた野口一則社長にお話を伺った。



Interviewee
- Kazunori Noguchi -

1947年4月、新潟市で生まれる。明治大学経営学部卒業後、外資系コンピュータ会社日本法人に就職。営業畑を歩み、1982年に新潟市にUターンして大手情報処理会社に勤務。1989年7月「株式会社シアンス」を設立し、社員が働きやすい会社を追求し続けている。

「理屈としてはあり得ますが、本当に実践しているところが立派です。」

野口／優秀な人材を採用したかったら、大企業がやっていないことをするしかありません。実際、当社には若い優秀な人材が集まってきています。裁量労働制をやってみてわかったことは、時間をかけなくても質の高い仕事はできるということです。むしろ、このような中で助け合いの企業文化が育ちました。いずれは、自分も他の社員の協力が要になるからです。ガラガラ仕事をする社員が減り、チームワークを重視して互いに支え合う気持ちが生れました。

有給休暇の取得率でも、当社の働きやすさは表れています。厚生労働省の調査では、日本の民間企業の有休取得率は約47%（2015年）ですが、当社は77%が取得しています。特に20代では100%に近い取得率で、先輩たちが率先して休むように心がけてきたので、有給休暇がとりやすい社風ができたと思います。

働き方を変えることに、社員の抵抗はなかったのでしょうか。

野口／これまでと違う仕組みを導入することができました。セミナー講師は全国展開で、日曜日に移動して月曜日・火曜日にセミナー、水曜日に移動して木曜日・金曜日にセミナーという生活です。社員は私一人でしたが、3年もするとSEを雇うことができました。5坪の事務所では手狭となり現在のビルに移り、その後、フロア移動を繰り返して今のオフィスに落ち着いたので7年前です。優秀な人材を採用するために会社説明会をするセミナールームを整備し、社内の打ち合わせスペースも広くとってあります。

御社は今年2月、日本ニアシオア開発推進機構から「適切にプロジェクトを遂行できる企業」として、日本で12番目、新潟県では最初の認定を受けました。

野口／「ニアシオア」は、耳慣れない言葉かもしれませんが、かつて、日本のIT人材の不足を解消するため、中国やインドなどの海外に発注する「オフショア」が主流でした。しかし、為替の変動やセキュリティ、人材の問題もあり減ってきました。それにもかかわらず、企業には開発案件が多数あります。そこで、国内

のですから、抵抗は覚悟していました。それまでは、残業することで収入が高くなる状態がありました。労働時間が減少して給料が下がると思い、反対する社員も少なからずいました。また「朝の会議はどうする」など、これまでの習慣を変えることへの不安もありました。

そこで、Webサイト上に社内専用の「ポータルサイト」を構築し、社員からの自由な意見や質問を受け付けました。そして、それらに対応したのですが、最初は自分の意見を過剰に主張する一部の社員もいました。しかし、働きやすい会社にしたいという思いにはブレがなかったので、根気よく活動を続けて、裁量労働制が少しずつ社内浸透して今日に至っているのが実情です。

ところで起業されたとき、社員数は何名でスタートされたのでしょうか。

野口／実は、新潟駅の近くに5坪の事務所を借り、私一人でスタートしました。当時はバブル全盛期で、SEの募集しても応募してくれる人はいません。困っていると、前職の会社でお世話になったお客様が仕事を回してくれました。社員

の地方に発注先を求めたのが「ニアシオア」なのです。開発推進機構に認定されるには、プロジェクト遂行力やエンジニアなど50項目の基準をクリアしなければなりません。

当社では、システム開発のスペースを外部と完全に分離しており、ICカードキーがなくては入室できないなど、強力なセキュリティ対策を講じています。ご要望があれば、お客様のプロジェクト専用の開発スペースを確保することもできます。一度、当社のオフィスにお越しいただければ、私どもの取り組みをご理解いただけるでしょう。

ニアシオアの認定は、社員のみなさんにとっても助かります。

野口／一般的には、東京の企業からシステム開発の仕事を受注すると、当社の社員を東京に派遣する形になります。それでは、働きやすい職場になっても効果が断絶します。ニアシオアなら、新潟にいなながら東京のシステム開発ができます。当社では、これからも新潟の経済性や利便性を活かし、お客様とWinWinの関係構築を行きたいと思っています。



風通しの良い社風が魅力

研修の講師に始まり、新入社員研修や研修の体制づくり、セミナー教科書の執筆などの仕事をいただき、無事に離陸する

Fact of a president and a company

株式会社シアンズ

本社：〒950-0088
新潟市中央区万代2-3-16 リバービューSDビル10F
代表：代表取締役社長 野口一則
TEL：025-246-4666
FAX：025-246-5777
URL：http://www.siance.co.jp
資本金：3600万円
設立：1989年（平成元年）7月5日
従業員数：50名
SE/Webデザイナー41名
営業6名、企画・事務3名
平均年齢29歳

40代になり、野口社長は将来のことを考えた。「このままやって行くのも一つの道。独立して自分で会社を興すのも一つの道。いろいろ考えているうちに独立して会社を興したくなってきました。メ

ーカーでは、営業の目標は自社のコンピュータを売ることに。本来、コンピュータは導入して終わりではなく、導入してからが勝負です。もっとユーザーに寄り添った仕事をしたいと思い、41歳で独立しました。以来、お客様の満足を深め、社員に感謝し、彼らが働きやすい環境をつくるのが努めと思ってきました。人とのつながりが希薄になったといわれる昨今、当社でも社員旅行は止めていますが、代わりに温泉宿で泊まりがけの忘年会をしています。夏にはセミナールームや会議室を開放し、社員の家族やお客様をご招待して新潟花火を観るイベントを開催します」と野口社長は語った。広々として清潔な社内スペースでお話を伺っていると、心も広くなるように感じて羨ましくなった。